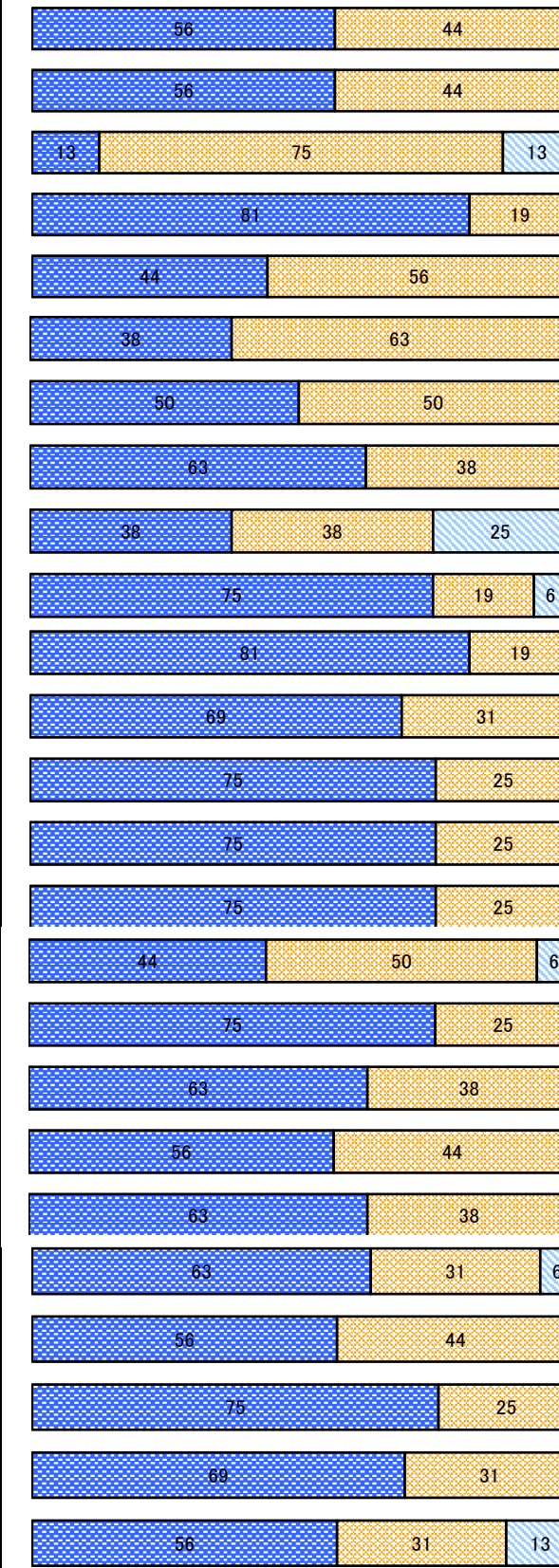
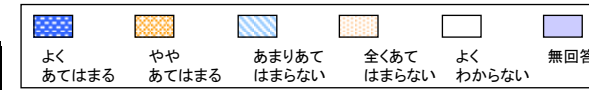


		アンケートの結果		上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員					
				A	B	C	D	よく分らない	無答
学校全体の様子	1	教育目標・方針	児童・生徒や保護者等と共有できるように学校の教育目標を示し、方針を説明している。	44	44	7	0	5	0
	2	児童・生徒の様子	児童・生徒は、明るく素直で、生き生きとした楽しい学校生活を送っている。	72	24	3	0	1	0
	3	基本的な生活習慣	児童・生徒の服装や通学態度、挨拶など基本的な生活習慣がしっかりしている。	42	46	11	1	1	0
	4	児童・生徒理解	児童・生徒の良さや努力しているところを見つけ、励まし、理解しながら一人一人の能力を伸ばすように努めている。	38	43	12	2	5	0
	5	健康・安全・安心	児童・生徒の健康や安全（確保・対策）に配慮するとともに、主体的に行動できる防災教育を充実している。	44	51	3	0	2	0
学力向上の取組	6	分かる授業	楽しく分かりやすい授業が実践されている。	54	37	6	0	2	0
	7	個に応じた指導	習熟度別学習等、児童・生徒一人一人の理解の程度に応じた学習指導が行われている。	68	26	3	1	2	0
	8	学習習慣	放課後の補充指導等を行うとともに、家庭での学習課題を提示する等、学習習慣の定着を図る工夫をしている。	62	23	12	3	0	0
	9	情報教育	タブレットPCなど、ICT機器を活用した教育を推進しながら、情報活用能力の育成に向けて取り組んでいる。	62	31	5	1	2	0
	10	学校図書館の活用	読書と学習に役立つ学校図書館として活用されている。	63	29	6	0	2	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	自他を大切に、偏見や差別を許さない豊かな人権感覚を育てる教育を行っている。	66	28	1	0	5	0
	12	道徳教育	生命を大切にす気持ちや他人を思いやる心、善悪の判断や規範意識を育てる等、道徳性をはぐくむ教育を行っている。	47	39	8	1	5	0
	13	教育相談	教育相談を充実し、いじめや不登校を防止する等児童・生徒一人一人の居場所がある学校づくりに努めている。	46	24	15	7	8	0
	14	人間関係づくり	学校行事等の教育活動を工夫し、体験活動を充実させながら望ましい人間関係が築けるよう取り組んでいる。	76	20	1	0	2	0
	15	自治的な活動	学級活動や児童会・生徒会活動等で、児童・生徒が自発的・自治的に活動できるように工夫しながら指導している。	58	34	7	0	1	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	学校便りや学年便り、学校ホームページ等で、保護者や地域の方に、学校の教育活動の様子を分かりやすく知らせている。	46	33	6	1	14	0
	17	相談への対応	児童・生徒や保護者からの連絡や相談を丁寧に受け止め、適切な対応をしている。	54	37	3	1	6	0
	18	学校への参加	学校公開週間や土曜授業日、学校行事等では、保護者や地域の方が参加しやすいように工夫している。	62	24	8	2	3	0
	19	地域との連携	地域の行事などに協力的で、連携を図っている。	54	40	4	1	1	0
	20	意見の反映	保護者や地域から寄せられた意見や要望を受け止め、学校運営と教育活動の改善に努めている。	28	37	26	5	4	0
各学校の特色ある教育	21	特色ある教育活動	英語の授業では、児童が英語に慣れ親しみ積極的に英語で自分の思いを伝えようとしたり、コミュニケーションを図ろうとしたりする態度を養っている。	47	34	4	2	13	0
	22	基礎・基本の定着	マスタータイム（計算・漢字等の習熟の時間）やあらかわ寺子屋を設け、一人一人が基礎・基本の力を身に付けている。	25	47	4	0	24	0
	23	自主的な休み時間の活用	朝休みや放課後、スーパー昼休みには、元気に体を動かしたり、図書室や学級のある本を読んだりしている。	51	35	10	2	2	0
	24	異学年交流	なかよし班や幼稚園交流など、異学年交流の活動の充実を図っている。	31	51	5	1	12	0
	25	外部人材の活用	外部人材を活用して、多彩な教育活動の充実を図っている。	40	35	16	3	6	0

無効票を除く(%)



無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）	
◎児童の肯定群が88%、保護者の肯定群が94%となっており、いずれも高い割合となっている。今後も学校目標を意識して生活していけるよう、3つのキャラクターを生かしながら、引き続き取り組んでいく。	
◎児童の肯定群が96%、保護者の肯定群が98%と、高い割合となっている。引き続き、児童が生き生きとした楽しい学校生活を送れるよう、きめ細かな指導や声掛けを行っている。	
◎児童の肯定群が88%、保護者の肯定群が92%とほぼ同じ割合となっている。挨拶については個人差が見られるので、自発的に行うことができるよう、挨拶運動や挨拶カードなどの取組を充実させるなど、引き続き力を入れて指導する。	
◎児童の肯定群が81%、保護者の肯定群が95%となり、昨年度より向上した。引き続き一人ひとりの良さを伸ばし、自己肯定感を高めていけるような指導の工夫を、丁寧に行っていく。	
◎昨年度に引き続き、児童の88%、保護者の98%が肯定群であり、高い割合となっている。毎月行っている避難訓練や安全指導等の成果だと思われる。引き続き防災教育の意義について周知していく。	
◎児童・保護者ともに、91%の肯定的評価を得ている。今後も、より一層の授業改善を行い、楽しく、分かりやすい授業を実践していく。	
◎児童の94%、保護者の83%が肯定的評価である。昨年度より向上したものの、保護者の「よく分らない」の回答が8%であることから、算数少数指導やあらかわ寺子屋の活用の充実を図るとともに、取組を周知していく。	
◎児童の肯定群が85%、保護者の肯定群が92%であった。あらかわ寺子屋の実施や、家庭での学習課題の提示・見取りなどを通して、授業以外での学習習慣の定着が進んでいると言える。	
◎児童の93%、保護者の86%が肯定的にとらえており、昨年度より上回っているが、教職員は76%に留まっている。一人1台のタブレットPCを各教科・領域で活用した授業づくりに力を入れていく。	
◎児童・保護者ともに、90%以上の肯定的評価を得ている。蔵書の充実や調べ学習での活用、読書賞への取り組みや図書ボランティアさんの読み聞かせ等で、学校図書館が十分に活用されていることが分かる。	
◎児童の肯定群は94%と多く、いじめ発見アンケートやその後の指導などが安心感につながっていると考えられる。保護者の肯定群は86%であったが、「よく分らない」との回答が10%あった。取組を周知していく必要がある。	
◎児童の86%、保護者の89%が肯定群であった。引き続き、ねらいとする道徳的価値に迫れるような授業を工夫するとともに、日常での指導も行い、道徳性をはぐくんでいく。	
△児童の肯定群が70%、保護者の肯定群が77%であり、昨年度とほぼ同等であった。児童や保護者の「よく分らない」がそれぞれ8%、16%いるので、スクールカウンセラー等、幅広く相談できる体制であることを折に触れて伝えていく。	
◎児童の肯定群が96%、保護者の肯定群が99%と、高い割合となっている。様々な行事や活動を通して、望ましい人間関係を築き、仲良く学校生活を送ることができていることが分かる。	
◎児童の92%、保護者の97%が肯定群である。児童が自ら考えながら活動できるように工夫することができていると言える。引き続き、自治的な活動ができるようにしていく。	
◎児童の14%が「よく分らない」と回答しているが、保護者の89%は肯定的評価である。ホームページの日常的な更新や、学校だよりや学年だより、配信メール等が効果的であると考えられる。	
◎児童・保護者ともに91%が肯定群である。連絡帳や電話による、家庭からの連絡・相談について、素早い対応を心掛けていることが反映されていると考えられる。引き続き、適切な対応をしていく。	
◎感染症対策の緩和により、対面での学校行事や授業公開を行ったことで、保護者の肯定的評価は94%となった。今後も状況を見ながら、保護者や地域の方が参加しやすいように工夫していく。	
△昨年度に引き続き、児童の否定群や、保護者の「よく分らない」の回答が多い結果となった。その中でも、保護者からは84%の肯定的評価を得ている。今後も地域との連携を積極的に図っていく。	
△児童・保護者の「よく分らない」がそれぞれ13%、24%と、昨年度とほぼ同等であった。行事や公開ごとにアンケートを取っているが、それを受けて改善したことを周知することに取り組んでいく。	
◎児童・保護者ともに80%以上の肯定的評価を得ている。一昨年度まで行っていた英語の研究「主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」の実践を引き続き行っている。1年生から継続して取り組むことで、肯定的評価につながっていると考えられる。	
△多くの児童が基礎・基本を身に付け、主体的な学びに生かしているが、19%の児童は否定群である。マスタータイムやあらかわ寺子屋のさらなる活用等、基礎・基本の定着につながる取り組みを強化していく。	
◎86%の児童が肯定群であり、休み時間には校庭で遊んだり、学校図書館で本を読んだりして、楽しく過ごしている様子がうかがえる。保護者もそのような児童の様子を理解していると考えられ、94%が肯定群となっている。	
◎児童の84%、保護者の91%が肯定群となっている。引き続き、なかよし班の活動を充実させたり、幼稚園が併設されている利点を生かして交流したりするなど、活動の充実を図っていく。	
△85%の児童が肯定的評価をしている一方で、保護者の「よく分らない」の回答が18%あった。外部人材を活用した際には、ホームページや学年だより等で周知を図っていく。	